

雪氷写真館⑤ 衛星観測/Satellite observation

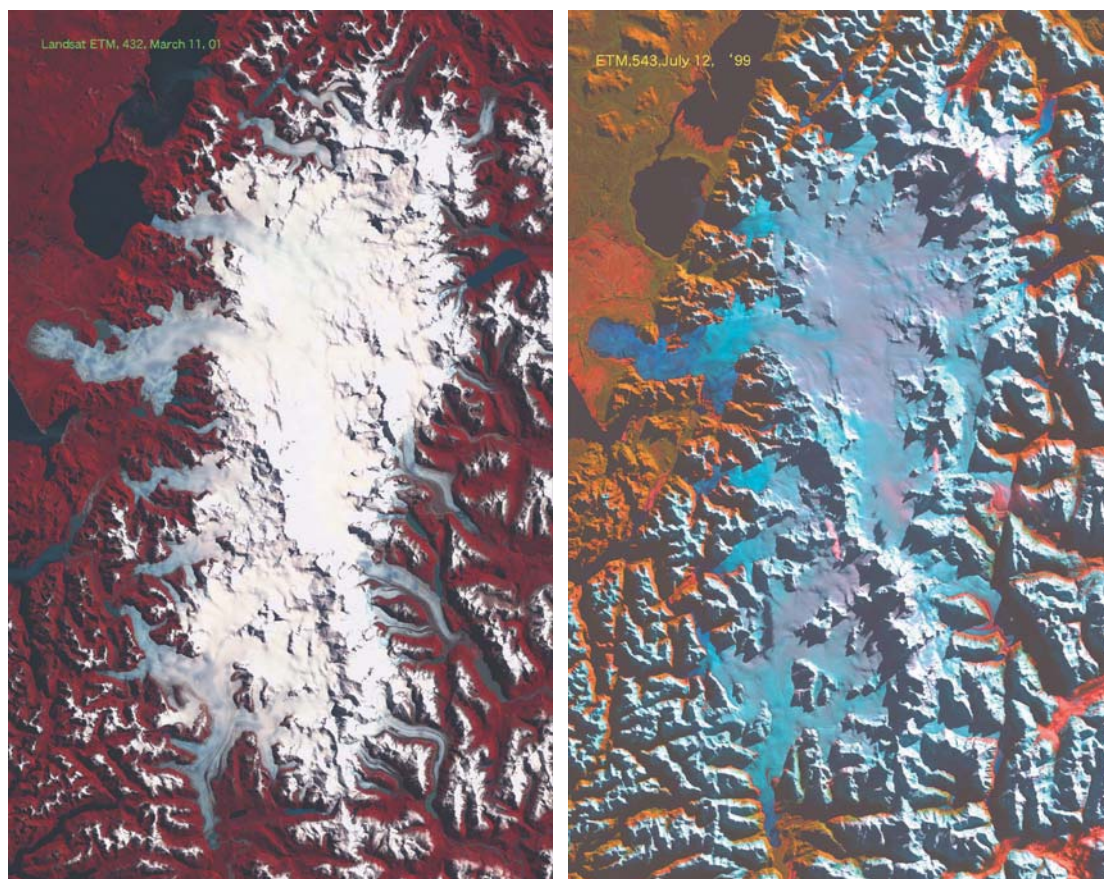


写真 1. 北パタゴニア氷原の夏と冬のランドサット・モザイク画像



写真 2. アイスバンドの航空写真



写真 3. アラスカバローにおける HDRF 観測

衛星観測

写真 1 : 北パタゴニア氷原のランドサット・モザイク画像。左 (2001 年 3 月 11 日) は夏, 右 (1999 年 7 月 12 日) は冬の画像。冬の画像で氷原の西側の積雪が少なく, 東側が多いのに注目。現地調査から冬でも氷河の末端, 標高 300-400 m 以下の所では雪が融けてクレバスが露出していることが判明。

写真 2 : 2000 年 2 月 15 日にヘリコプターから撮影したオホーツク海北海道沿岸の氷縁域に形成されたアイスバンドである。バンドの大体の幅は約 200-300 m, バンドを形成している氷盤のおおきさは約 10-20 m だと思われる。(本文 259 頁の衛星で捉えたアイスバンド画像参照)。北海道大学低温科学研究所二橋創平博士提供。

写真 3 : アラスカバローにおける双方向反射率 (HDRDF) 観測の様子。雪面上に可視近赤外域分光器を設置し, 異なった方向から反射率を測定することにより HDRDF を求める。この観測は積雪物理量抽出アルゴリズムの基礎となる HDRDF (または, BRDF) モデルの改良や, 衛星観測と同期することにより衛星校正作業に利用される。

安仁屋政武・石田邦光・青木輝夫 (衛星観測分科会)